ANNUAL REPORT

平成23年度

年次報告書

2011.4.1-2012.3.31

いのちにやさしい社会をめざして。

JAWS
WE LOVE YOU

Japan Animal Welfare Society
公益社団法人日本動物福祉協会

ごあいさつ …… 1

Ⅰ動物福祉活動 …… 2～7
- □ 東日本大震災動物救援活動
- □ 動物虐待防止
- □ 犬・猫の不妊・去勢手術の推進
- □ ペット動物の購入問題
- □ 動物との共生を考える連絡会
- □ 譲渡事業
- □ 環境省中央環境審議会動物愛護部会
- □ 各自治体における協議会・委員会
- □ 動物ＩＤ普及推進会議（ＡＩＰＯ）

Ⅱ広報・啓発活動 …… 7～8
- □ 第52回動物愛護の作文コンテスト
- □ 動物愛護週間中央行事
- □ JAWS レポート
- □ 講演・研修・取材等
- □ パネル展
- □ 電話等による相談

Ⅲ募金活動 …… 9
- □ 常陸宮妃華子殿下のご翻訳絵本
- □ 各種オリジナルグッズの販売等
- □ 寄付金

Ⅳ会員募集活動 …… 10

Ⅴ事務局関係 …… 10
- □ 定時会員総会

Ⅵ各支部の活動報告 …… 11～15
- ■ 栃木支部
- ■ 新東京支部
- ■ 横浜支部
- ■ 相模支部
- ■ 南大阪支部
- ■ 徳島支部

※北海道と阪神支部は現在休会中

Ⅶ 財務状況 …… 16

表紙写真　当協会理事による石巻シェルター視察（左）
東日本大震災東京都動物救援センター（右）

動物を虐待から守りあらゆる「いのち」にやさしい社会を築いていくために。

ご支援とご協力を
お願い申し上げます。

□ **動物救護基金**　動物の保護・救助・新しい飼い主探しに対するご支援
□ **不妊・去勢手術助成基金**　不妊・去勢手術に対するご支援
□ **一般基金**　その他、協会の全般的な活動に対するご支援

●お振込先：郵便振替
口座番号：00130-6-20714
加入者名：公益社団法人 日本動物福祉協会

終身会員（L）	140,000円	1回限り、正会員2名の推薦を要する
法人会員（CJ）	50,000円	（1口）（年額・1口以上）
維持会員（S）	7,000円	年額・正会員2名の推薦を要する
賛助会員（A）	3,000円	年額
青少年会員（J）	1,000円	年額・20歳未満

名誉総裁

常陸宮妃華子殿下

顧　問

安部 勝人　佐良 直美
藤原 澄子　倉林 恵太郎
池本 卯典　澁谷　正
山崎 恵子

役　員

理事長　山下 眞一郎
副理事長　齋藤　勝
理　事　安田 幸子
理　事　加藤 笑子（経理理事）
理　事　兵藤 哲夫
理　事　伊藤 美子
理　事　佐野　登（総務理事）
理　事　服部 真二
理　事　井上 多賀子
理　事　清水 道彦
理　事　緒方 延泰
理　事　飯塚　脩

監　事　児玉 惟継
監　事　齋藤 公男

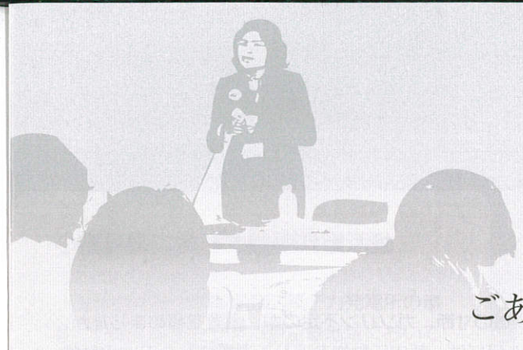
海外委員

英国日本動物福祉協会
理事長　T.Crittenden

事務局

事務局長　桜井 邦広
獣医師・調査員　山口 千津子
調査員　清藤 里美
事務員　川崎　敞
事務員　小犬丸千寿美
事務員　冨田 裕子
事務員　木野 淳子

CCクロスタッフ　北村 美代子
CCクロスタッフ　深谷 美香
CCクロスタッフ　甲斐 晶子



ごあいさつ　　理事長　山下眞一郎

会員並びにご支援者の皆様におかれましては、ますますご清祥の事とお慶び申し上げます。

平成 23 年度は、東日本大震災の影響を受けて、協会にとりましては近年になく多忙を極めた年となりました。

緊急災害時動物救援本部の主力メンバーとして、環境省や被災各県と連携して動物達の救護活動を推進し、東京都を含めた各地のシェルターの運営サポートや、一時預かり先の斡旋、海外からの支援の受け入れ業務など、様々な領域で、多彩な活動を展開いたしました。

皆様から頂いた義援金の総額は 6 億円を突破し、80 件近くの団体からの申請にお応えして、その活動を支援することが出来ました。この 1 年間、私共の救援活動をご支援いただいた皆様に、改めて衷心より感謝申し上げる次第です。

また、厳しい経済状況にも拘らず、変わらぬご支援を頂いている JAWS・UK 並びにバッカーズ・ファンデーションはもとより、救援本部に 5,000 万円にのぼる義援金をお寄せいただいた、海外の動物愛護団体の皆様にも、本部を代表して御礼を申し上げます。

今年度は 10 月と 12 月に東京と仙台で、ボランティアの育成をテーマとしたセミナーを開催し、予想を大きく上回る参会者を迎えることが出来、皆様のボランティア活動に対する関心の高さを実感いたしました。

10 月には、延期していた「チャリティビンゴ大会」を開催し、大勢のお客様にお楽しみ頂きましたが、今年の 3 月は、お休みさせていただきました。

ところで、このところ続いている会員数の減少は、私共のこうした活動の基盤を大きく揺るがすものでもあります。不妊去勢手術の助成や、マイクロチップの普及など、継続を必要とする課題も多く、なんとしても会員数の拡大が必須の状況であります。私共の日頃の活動を更に PR し、社会一般のご理解とご賛同を得て、新規会員の獲得を、是非実現して参りたいと考えております。

まだまだ、課題は山積しておりますが、会員並びにご支援下さる皆様のご尽力を頂きながら、「人と動物が共に幸せに暮らせる社会」の実現に向けて、着実な一歩を進めて参りたいと念じております。

皆様のご健勝をお祈り申し上げながら、平成 23 年度の活動の成果をご報告させていただきます。

Ⅰ 動物福祉活動

◉東日本大震災救援活動

◇緊急災害時動物救援本部

昨年３月 11 日の発災以来、当協会は日本動物愛護協会・日本愛玩動物協会・日本獣医師会と共に緊急災害時動物救援本部を立ち上げ、被災地の動物救護活動を展開してきました。岩手・宮城・福島３県のアニマルシェルターの立ち上げと義援金援助、東京都のシェルターの立ち上げと運営及び資金援助、環境省や地元獣医師会との作業連携による被災動物の救護と飼い主探しなど、本部の中核となって多方面にわたる活動を展開して参りました。

特に、当協会は上記に加え、被災動物の一時預かり先の斡旋や、海外支援団体に対する窓口業務を担当し、犬・猫併せて 169 頭の預かり先を決め、海外から約５千万円の義援金を集めることが出来ました。幸いにして岩手・宮城の両県では動物救護活動も一段落しておりますが、放射能汚染の問題を抱える福島県では、まだ収容されている動物の数も多く、長期的な取組みが必要です。当協会も本部の主力メンバーとして、今後も国や県と緊密な連携を取りながら、救援活動を継続してまいります。

〈動物救護活動〉

昨年３月 11 日に起きた未曾有の大災害、広域かつ甚大な被害の中での被災動物救護活動は、ライフラインの崩壊、道路・鉄道の寸断、ガソリン不足の中、困難を極めましたが、３月 14 日には、都内に動物を連れて避難された方々の動物を（公社）東京都獣医師会と協力して預かり、物資を被災地に届け、緊急災害時動物救援本部の構成団体として、被災各地を訪れ、必要なものを必要な方々に届ける努力をすることから始まりました。岩手県では、県と県獣医師会、10 の動物愛護団体が動物救護本部を立ち上げ、宮城県・仙台市においても県・市と獣医師会、動物愛護団体が救護本部を立ち上げて被災動物の救護・支援活動を実施し、そのお手伝いをしました。

緊急災害時動物救援本部の臨時シェルター内部

◇東日本大震災東京都動物救援本部

東京都はすでに同行避難を謳っておりますので、東京緊急対策 2011 に基づき、都内に避難されている被災者の同行犬猫を預かり保護する施設として東日本大震災東京都動物救援センターを日野市内に建設し、10 月から、東日本大震災東京都動物救護本部〔運営構成団体：(公社) 東京都獣医師会・(公財) 日本動物愛護協会・(公社) 日本愛玩動物協会・(公社) 日本動物福祉協会・(社) 東京都家庭動物愛護協会〕が運営管理しています。また、福島県の依頼による 20 キロ圏内から保護された犬５頭も福島県から移送し、当センターにて健康・性格チェック・不妊手術後、良い家庭に譲渡します。３月末現在、犬 16 頭、猫 11 頭を保護しています。毎日、スタッフとボランティアで世話をしていますが、健康管理・衛生管理だけでなく、出来るだけストレスのかからないような飼育管理を心がけています。

プレイルームでくつろぐ
福島県から避難されてこられた方の猫たち

◇福島県における動物救護活動

今なお先行きが見えない原子力発電所の事故による、立ち入り禁止や避難地域においては、飼い主が一日だけの避難と思い動物を家に置いてきたり、人間の避難がやっとで動物はその場に残されたりと、多くのペット動物や畜産動物が 20 キロ圏内や避難地域に残されました。私たち団体だけでなく、飼い主すらも中に入れてもらえず、動物たちはどんどん飢えていきました。強い要望で、やっと５月に始まった被災者の一時帰宅では、環境省、福島県、応援の他県自治体と協力して動物を家に置いてきた、あるいは、放してきた飼い主に呼びかけ、リードやキャリーケージ・ペットフード・お水を渡して、置いてきた動物を確保してもらい、自治体職員が車で一時帰宅の家々を回り、保護しました。同時に、つかまらない犬・猫のために、フードを置いてきています。すぐに家に連れて帰れない犬・猫は、福島県が準備した保護施設に保護しましたが、３月末までには優に７００頭は超えています。自治体独自でも保護活動をしています。福島県はこれらの犬猫のためのシェルターを２箇所用意し、スタッフ及び獣医師を雇用して世話をしていますが、次から次と犬猫が保護されるので、常に過密状態に置かれています。公示しても飼い主が見つからない、あるいは、飼い主が継続飼育できない犬猫については新しい飼い主を募集しています。

一時帰宅に猫キャリーを持ってバスに乗る飼い主。この後、飼い主が保護した犬や猫を県職員が依頼者の家をまわって保護する。

◉動物虐待防止

本年度も当協会へ動物の虐待や飼育管理に関する相談が多々寄せられました。動物取扱業者に関する相談もありましたが、中でも多かったのは、一般家庭で飼育されている動物の飼育方法に関する相談でした。視察に出向いて飼い主さんと話ができれば、飼育に関するアドバイスをさせていただきましたが、飼い主さんに話し合いを拒否されてしまった場合は、地域の自治体へ協力を要請することもありました。また、昨今ではご近所間での積極的なコミュニケーションは難しい状況もあるかとも思いますが、相談を受けて実際に視察に出向き、飼い主さんの話を聞くと「犬が痩せているのは高齢のため」「病気だが動物病院には行っている」等、ご近所でのコミュニケーションがもう少し取れていれば原因が分かる相談も多かったように思えます。

さらに、私たち動物の譲渡に関わっている者が心しなければならない事件も起きました。男性が譲り受けた猫を次々と殺害していたという事件です。この事件については、当協会にも警察に話をするに当たっての相談がありましたが、警察が動き、男性は動物愛護法違反容疑で逮捕されました。また、大切に育てるとの誓約書を交わして譲り受けた猫を殺害したとして、詐欺罪でも再逮捕されました。２月には初公判があり、詐欺罪で追送検されています。動物愛護管理法の改正と同時に、いかにそれを適用するかが重要です。

◇動物愛護管理法改正に向けて

いよいよ今通常国会に提出されるはずの動物愛護管理法改正案。見直しに向けた環境省動物愛護管理のあり方検討小委員会も 12 月に終了し、報告書が出されましたが、委員間で意見が纏らず、ほとんどが両論併記になっております。

いまだに後を絶たない劣悪飼育管理や幼齢動物の販売、ネット販売禁止その他動物取扱業に対する規制がどこまで強化されるか、動物虐待を未然に防ぐために動物のニーズ（5 つの自由）を原則に入れ込み、この法律の根幹とできるか、虐待の定義を詳細にし、罰則強化できるか、多頭飼育の規制や実験動物や産業動物の福祉の確保のための方策等たくさんある改善必要項目がどこまで取り入れられるかは、国会議員の方々にいかに理解していただけるかにかかっています。

残虐な猫の虐待が続いて恐怖に陥っている地区があったり、休みの日は誰も世話をせず放置されている学校飼育動物のネグレクト等、今の法律でも十分対応できるにもかかわらず、うまく適用されていないケースが多々あります。

せっかく改正された法律を効果的に適用するには、何としても動物虐待を未然に防ぐための仕組み作りが必要です。

平成 22 年度全国統計

	引取数		処分数	
	成熟個体	幼令個体	返還・譲渡	殺処分
犬	67,280	17,886	33,464	51,964
猫	42,907	121,401	11,876	152,729

（注）引き取り数の成熟個体には狂犬病予防法に基づく抑留が含まれる。殺処分数には、幼齢個体などの保管中の病気等による死も含まれる。（環境省）

◉犬・猫の不妊・去勢手術の助成

平成23年度の「捨て犬・捨て猫防止キャンペーン」は、対象地域を例年の２地域から１地域に変更し、福岡県で実施いたしました。助成金お支払い頭数をメス（犬猫合わせて）300頭、オス（犬猫合わせて）200頭に増やし、地域獣医師会のご後援の下、メスは１頭１万円、オスは１頭５千円の助成をさせていただきました。

募集に際して、動物病院や関連自治体に告知ポスターを掲示していただくと同時に、地域の新聞にも取り上げていただいた結果、本年もたくさんのご応募を頂きました。例年通り当選後の助成金交付不申請が２割程度あることを踏まえ、当選頭数を割り増して対応させていただきましたが、今年度はメスが２割強、オスについては３割弱の助成金交付不申請がありました。当選され、期日までに不妊・去勢手術を実施した方へは、３月末までに助成金をお支払いしています。

	応募ハガキ数		当選頭数		助成金お支払い頭数	
	メス	オス	メス	オス	メス	オス
犬	244	142	77	42	45	28
猫	1288	648	283	198	240	148
合計	1532	790	360	240	285	176

各支部を通しても、不妊・去勢手術の助成金を出し、不幸な犬や猫を減らすべく努めました。手術の助成頭数内訳は以下の通りです。

	メス	オス
支部合計 助成頭数	1277	641
本部合計 助成頭数※	295	195
本・支部合計	1572	836

※キャンペーン、CCクロ分を含む

◉ペット動物の購入問題

今年度のペットの購入トラブルに関する相談件数は20件で、昨年度の相談件数を少々上回りました。相談内容は例年と同様に病気に関するトラブルがほとんどで、購入して間もなく動物の体調不良が原因で販売側と連絡を取っているが納得いかないというものでした。

インターネットで動物を購入した人は20件中３件と昨年に比べるとやや減少しましたが、インターネットで動物を購入する場合、販売側との事前のやり取りをメールや電話だけで簡単に済ませていることが多く、購入に関する誓約書すら交わしていないというケースがありました。

また、イベント時に動物を購入した後、販売業者と連絡が取れないというケースもあります。イベント時は賑やかなイベント会場で動物を購入することになるため、販売側が本来行なわなければいけない生体に関する説明も適切に行なわれていないことがあります。事例として、販売側から購入時に生体と共に薬を渡され、毎日飲ませてくださいと言われたが、その薬は何の為に飲ませる必要があり、どのような薬なのということを聞きそびれたという相談者がいました。その薬はパッケージから出されているため獣医師に種類を聞いても分からず、動物の健康チェックをしてみると感染症にかかっており、その後販売側へ連絡を取っても連絡がつかないという事例でした。このようなケースは販売する側の問題もちろんありますが、購入側にも命を迎えるにあたっての責任感の薄さが伺えます。この相談者は、可愛くて安売りしていたので、購入時は病気のことや保障のことなど深く考えずに購入してしまったと後悔していました。

今後このような購入に関するトラブルを無くすためにも、まもなく改正が予定されている「動物の愛護及び管理に関する法律」の中で、これらのインターネットによる生体販売や移動販売の禁止が盛り込まれることを切に願います。

◉動物との共生を考える連絡会

今年度も、引き続き猪名部神社及び多度大社上げ馬神事において馬への虐待がないかを監視し、同じく監視をしている三重県薬務食品室と話し合いを持ちました。三重県教育委員会もこの神事を無形民俗文化財として認めているところから、監視をしていました。一方、連絡会として、平成21年５月の多度大社上げ馬神事における馬への虐待で、祭りの関係者５人を「動物の愛護及び管理に関する法律」違反で告発していた件につきましては、10月31日、津地方検察庁四日市支部から、不起訴とする旨の通知が届きました。

動物愛護管理法改正に向けては、環境省動物愛護管理のあり方検討小委員会や各党委員会のヒヤリングに参加し、意見を述べ、提言すると共に、各党議員への陳情を行いました。また、国民の動物愛護管理法改正への意識向上と意見を聞くために、前年度に引き続き、「動物の愛護及び管理に関する法律を考えるシンポジウムー法で支える動物との共生～今、何が欠けているか」を神奈川県川崎市と滋賀県大津市において開催しました。連絡会の要望をできるだけ反映していただけるようこれからもロビー活動を続けます。

◉譲渡事業

新しい飼い主さがし

本年も本部・支部ともに、動物達の新しい飼い主さん探しをお手伝いさせていただきました。本部からは犬4頭、CCクロからは犬８５頭、各支部からは犬103頭、猫157頭が新しい家庭に迎えられました。

このダックスフンドは、お一人暮らしの飼い主さんがご高齢のため、今後一緒に生活をしていくことができなくなってしまい、新しい飼い主さんを探していました。新しい飼い主さんとは、以前飼育していたダックスフンドに似ているというご縁で出会うことができ、無事に譲渡成立。譲渡日から新しい飼い主さんのご家族にべったり甘え、環境にも慣れているそうです。排泄のしつけや、少々肥満気味の体重を落とす為のダイエットも、ご家族にご協力いただき、毎日のお散歩や食事で管理をしていただいています。

このマルチーズは飼い主さんの体調不良により飼育継続が困難となり、新しい飼い主さんを探していました。そんな中、昨年の３月11日に起きた東日本大震災の被災動物のことを気に掛けていただいていた新しい飼い主さんに偶然当協会のホームページを見つけていただき、それがこの度の出会いとなりました。抱っこが大好きで、飼い主さんの膝の上がお気に入りのようです。恐怖心からか、散歩中に他の犬に対して吠えてしまうこともあるようですが、現在しつけ教室に通っていただいており、しつけも飼い主さんとのスキンシップとして楽しんでいただいているようです。

飼い主さんの家庭の事情で飼育継続が難しくなってしまったこのラブラドールレトリバーは、元気いっぱいの４歳の女の子です。新しい飼い主さんとのご縁は、このラブラドールレトリバーの誕生日が、以前飼育していたラブラドールレトリバーの命日の数日後であったことに、新しい飼い主さんが興味を持っていただいたことから始まりました。今では新しい飼い主さんと一緒に登山へ行ったり、お腹を見せながら以前にも増しておもいっきり甘えたりと、飼い主さんを独り占め。肥満気味であった体重もかなりスリムになったようです。現在は、飼い主探しの依頼を受けた時の表情とは比べものにならないくらい、いい顔をしています。

CCクロ

東日本大震災から１年以上経過しましたが、原発事故の影響もあり、まだまだたくさんの方々が復興に向けて頑張っておられます。私たちに出来ることは小さなことかもしれませんが、一年間を通して被災動物救護活動への募金活動をおこない、災害への備えをテーマに啓発にも取り組みました。今後も継続していきたいと思っています。

◇震災を通して

◎災害をテーマに取り組んだ１年

スタッフ・ボランティアで学ぶだけでなく、新しい飼い主の方々やイベントに参加される方々に対して「同行避難」について発信してきました。JAWS発行の「緊急災害時同行避難袋チェックリスト」をもとに、避難グッズをまとめて展示して、いざという時のための備えについて呼び掛けました。

被災地に何度も足を運ばれた本部山口先生より「東日本大震災の動物救護活動」についての報告会をしていただき、現地の様子を知ることが出来ました。また、ボランティア勉強会では、阪神淡路大震災の動物救護活動を振り返り、「今、災害が起こったら」をテーマにグループディスカッションをおこないました。非常時に備え、人間用と動物用にそれぞれどんな物がどれだけ必要かを確認し合い、必要物品を購入して備蓄しています。

〈次ページへ〉

◎被災動物救護活動のための街頭募金

2011年4月～9月までは総額419,609円を緊急災害時動物救援本部へ（JAWS口座を通して）、2011年10月～3月までは総額132,597円を福島県動物救護本部に送金させていただきました。他の地域の被災動物救護活動が少しずつ落ち着いていく中、福島県の場合は先の見えない長期的な救護活動となるかもしれません。募金活動などの支援への関心の薄さが募金額からもうかがえますが、引き続き「被災地を忘れない」という気持ちでサポートさせていただきたいと思っています。

★神戸市との協働の中で

◎サマースクールの開催

神戸市内の小学3年生～6年生と保護者を対象として、夏休み期間にサマースクール（動物愛護スクール）を開催しました。CCクロでは、命を慈しむことの大切さをこれからの未来を担う子どもたちに伝えていきたいと熱望していましたが、実現に向けて新たな一歩を踏み出すことが出来ました。犬の習性や正しい飼い方を知るクイズラリーやパネルシアターを通して興味を深め、散歩やブラッシング等実際に犬のお世話も体験。なぜ動物管理センターに犬や猫が保護されるのかといった現状も伝えました。子どもたちだけでなく、一緒に参加された保護者の方々も熱心に学んでおられました。

◎休日譲渡会（6月、9月、12月、3月の第一日曜日）

3カ月ごとで年に4回の開催ではありましたが、休日譲渡会が少しずつ定着してきています。毎週水曜日の平日譲渡会に比べご家族揃ってご参加いただけるので、さらに回数を増やしていただけるよう要望していたところ、神戸市のご理解も得られ、2012年度より年に6回の開催となりました。

◎猫舎・検疫室・ボランティア控室の完成

神戸市のご尽力のもと、猫の譲渡に向けた猫舎、犬の検疫室、そして私たちボランティアの控室（ミーティングルーム）を造っていただきました。今までは治療室の診察台を消毒した後クロスを敷きテーブル代わりにして昼食をとり、パソコン使用の仕事もほとんど持ち帰り作業となっていたので、私たちにとってもありがたいことですが、犬や猫の保管場所の衛生管理についてもこれまでどおり徹底して気を配っていきたいと思います。

◎不妊去勢手術実施頭数と譲渡実績

2011年度の不妊去勢手術実施頭数は、オス19頭、メス10頭の計20頭、新しい飼い主のもとに迎えられた犬は、子犬51頭、成犬34頭の計85頭でした。
適正譲渡を実現しながら、より1頭でも多くの命を救っていけるよう、私たちの活動を発展させていきたいと思います。

ジャックラッセルテリア
「キャンディ・♀」1歳半

家庭に迎えて2ヵ月ほど経ちずいぶん慣れてきました。散策大好きでたっぷり散歩しています。夜の9時頃になるとサークルの中のベッドに自分から入り、サークルの扉を閉めるまで待っています。ごほうびのおやつを楽しみにしているようで、ごほうびの後で寝る、と犬が決めているようです。

チワワ「デラ・♂」4歳

子どもをふたり育ててきましたが、3人目（人ではなく犬ですが）のデラが一番のおりこうさんです。我が家に来てすぐは緊張していたようですが、すぐに打ち解けて、すっかり家族の一員です。

雑種「うど(左)・♂」1歳、
雑種「わらび(右)・♂」1歳

◇**うど**：最初は屋外飼育の予定でしたが、家の中が大好きで、特に困ったこともないのですっかり室内犬生活が板につきました。冬はファンヒーターの前を陣取っています。寝るときは家族の布団の上にいます。楽しいトリックも覚えました。みんなに披露したいです。

◇**わらび**：庭で穴掘りをするのが大好き。雨の日でも泥んこになってあそぶのが好きです。毎日笑っています。犬も笑うんですね。わらびを迎えて楽しい毎日です。

※うどちゃんとわらびちゃんは兄弟犬です。同窓会でも再会しました！

◉環境省中央環境審議会動物愛護部会

平成22年8月から開催されておりました動物愛護管理のあり方検討小委員会も12月の第25回をもって終了し、その間に2回行ったパブリックコメントも踏まえ、報告書を提出しました。しかし、検討会の委員の意見がほとんどの項目で、一つに纏らず、両論併記のまま動物愛護部会へ上程しました。議員立法としての改正になりますので、後は、国会議員の方々と環境省にお任せすることになっています。

◉各自治体における協議会・委員会

当協会理事・本部職員・支部メンバーは、それぞれ地元及び各自治体の協議会・委員会の委員として会議に参画し、動物福祉の向上を目指して意見を述べ、命にやさしい社会作りに努力しました。

◉動物ID普及推進会議（AIPO）

当協会は日本獣医師会などと共同でマイクロチップによる個体識別の推進を図り、普及状況や登録事業の管理を継続しています。

平成24年3月31日現在の累計登録数は602,405頭で、内訳は犬493,131頭、猫105,910頭、その他3,364頭となっています。昨年度が450,414頭でしたので151,991頭の増加となります。1年間で15万頭の増加は、ペットショップが、販売時にチップを埋め込むケースが増えていることが主因ですが、一般市民の間にも、今回の災害等の報道から、マイクロチップの有用性に対する理解が拡大してきているものと考えられます。

Ⅱ 広報・啓発活動

作文コンテスト、イベント等

◉第52回動物愛護の作文コンテスト

全国の小中学生を対象とする作文コンテストは回を重ね、第52回を実施いたしました。応募総数は1081編で、東日本大震災と言う未曾有の大災害を反映して例年以上に「小さな命を大切にする」熱い思いがこもった力作ぞろいでした。環境大臣賞には椙山涼介君（橘小5年）の「命を食べるということ」と島田佳林さん（山形大付属中3年）の「ロータリーの犬」が選ばれました。特別賞の「ヒルズのサイエンスダイエット賞」や「昭和会館賞」を含め、合計28名が受賞しました。

11月27日(日)東京プリンスホテル「サンフラワーホール」に、名誉総裁常陸宮妃華子殿下をお迎えして、表彰式が開催され、受賞者とそのご家族、審査員の方々、来賓の皆様が出席されました。受賞した生徒さんたちの一人ひとりに、妃殿下が御手ずから記念品を渡され、お言葉をお掛けいただきましたので、ご家族の皆様の感激もひとしおで、式典はつつがなく終了いたしました。

記念撮影

◉動物愛護週間中央行事

今年度の動物愛護フェスティバルのテーマは、震災の経験を踏まえて「備えよう！いつも一緒にいたいから」でした。

9月17日（土）に上野公園不忍池周辺で屋外行事が開催され、当協会は恒例の折り紙コーナーと被災地での救護活動を紹介したパネル展示を実施しました。又23日（祝）には国立博物館平成館講堂で、シンポジウム「人と動物の防災を考える」を実施し、当協会の山口職員等による救護活動報告や、新潟地震の際の担当者による対応報告、水族館での防災対策などの講演が行われ、参会者は興味深く聞き入っておられました。

屋外行事全体の参加者は約8,000人、シンポジウムの参加者は318人でした。

屋外行事

屋内行事

◇ 動物愛護管理功労者環境大臣表彰

徳島支部の伊月高憲副支部長は、平成元年の支部創立以来、その活動を実質的に支えてこられましたが、不妊去勢手術の推進など徳島県における動物愛護思想の啓蒙・普及に関する顕著な功績を認められて、環境省から表彰されました。

◉JAWS レポート

今年度は 65,66,67 号と 3 回発行し、被災地での当協会の活動状況や、主催したセミナー等の概要報告、法改正を巡る動き等、この 1 年間の主な出来事を記述し、会員の皆様・自治体・獣医師会などにお届けしております。

◉講演・研修・取材等

10 月 23 日（東京）·29 日（仙台市）及び 12 月 17 日（東京）に、アニマルシェルターセミナーを開催しました。カリフォルニア大学デイビス校の田中亜紀先生と日本獣医生命科学大学の水越美奈先生をお迎えし、シェルターを運営管理する側及びそこでお手伝いするボランティア側の双方が知っていなければならないことを講演していただきました。東日本大震災で被災し、保護施設に保護されている動物たちの福祉の確保及びお世話する方々の参考になればと願って開催しましたが、どの会場も満席となり、関心の大きさがうかがえます。

2月 18 日·19 日、神戸市において、（公社）日本獣医師会·（公社）ノッツ共催の第 2 回神戸アニマルケア国際会議が開催され、その中で、当協会としてワークショップⅢ「東日本大震災から学ぶ今後の緊急災害時の動物救護～法的裏づけの必要性と平時からの準備」を実施しました。

ＨＣＪ企画として、11 月 12 日（大阪）、13 日（東京）に、海外から人道教育の専門家であるバララン氏とレネイ氏をお招きしてワークショップ「青少年に対する人道教育の必要性」を開催いたしました。

今年度も各方面からの講演や取材の依頼を受け、当協会は積極的にこれに応じました。年間講演回数は 39 回、取材は電話取材を除き 24 回でした。その他、資料や情報提供にも応じました。専門学校や大学等からの研修も年６回受け入れました。

◉パネル展

他団体主催イベント等に動物虐待防止写真パネルや東日本大震災の写真を貸し出しました。

◉電話等による相談

日本全国から寄せられる動物に関する様々な相談に応じました。

Ⅲ 募金活動

ご支援に感謝

◉常陸宮妃華子殿下のご翻訳絵本

妃殿下はこれまでに 5 冊の絵本「ぼくじゃないよジェイクだよ」「せかいでいちばんおりこうな犬」「89 番目のネコ」「ハニーが盲導犬になるまで」「しょうぼう犬ドット」を翻訳されていますが、「せかいで…」は残念なことに現在は絶版となっております。いずれも美しい挿絵と温かくやさしい文章が印象的な絵本で、バザーなどでは大変人気があります。妃殿下のご好意で、売上と印税は全て、当協会へご寄付いただいております。

◉各種オリジナルグッズの販売等

昨年冬にはフリースのブランケットを制作し、大変好評でしたが、動物カレンダーは、毎年大量にご購入いただいていた（公社）日本青年会議所からの発注が無くなり、募金額が減少する一因となりました。

慈善ビンゴ会は東日本大震災の影響で 10 月に実施され、例年の 3 月実施は取止めとなりました。従いまして今年度の募金収入は 683 万円と昨年度を 121 万円ほど下回りました。厳しい経済状況が続く中、会員の皆様のご尽力とご支援に心から感謝申し上げます。

尚、昨年度の年次報告書で、「募金収入 1,170 万円で前年度を 114 万円下回った」と記載致しましたが、正しくは「募金収入 804 万円で前年度を 480 万円下回った」の誤りでした。事務局の記載ミスで誠に申し訳ございません。謹んで訂正させていただきます。

◉寄付金

当協会の活動趣旨にご賛同いただき本年度も多くの団体、会員を含めた個人の皆様からご寄付を賜りました。

◆寄付者ご芳名（敬称略）

バッカーズ・ファンデーション	3,000,000
山下　眞一郎	1,000,000
樋渡　佐登子	1,000,000
兵藤　哲夫	910,000
財団法人 日本いけばな芸術協会	500,000
公益社団法人程ヶ谷基金	500,000
土田　謙一（くまちゃん）	300,000
鶴川　妙子	286,000
松田　早苗	270,000

栁　康之	257,000
一般社団法人学習院桜友会	250,000
武田　千佳	200,000
山口　以昌	197,000
都丸　淳	150,000
鈴木　秀雄	100,000
社団法人東京乗馬倶楽部	100,000
林　貞子	100,000
中村　節子	100,000

◆定期的なご寄付者（敬称略）

張替邦夫　宮川和子　西岡千秋　黒木敬子　津由利子
山田昌子　水原光世　石井重則　安田幸子
石原ます子　松岡栄子　中村晃子　平澤一美
鶴田弘美　中村史子　山脇美恵子　小島礼子
白田まち子　水野惠美子　遠藤さくら

関根輝江　　マースジャパン リミテッド
鹿野乃婦子　有限会社 日淞ハウジング松浦
稲田順子　天野由利子　中川美代子　木本章子
苅部芳江　学）孔明学園　溝口健治

ここに掲載できなかった方々に対しましても心から感謝申し上げます。